「みんな言ってるよ．」

山　本　博　之

皆さまには様々な思いで新年をお迎えのことと思います．本年が皆さま，そして学会にとりますますよい年となりますことを心よりお祈り申し上げます．

子どもの頃のお話です．なにかちょっとした悪戯を働いて親に叱られた記憶が何度となくあります．「なんでこんなことした！」「だってみんないいって言ってたよ…」「みんなって誰！」「えーと，A くんと，B くんと，それから C くんと，えーと…」とあとを言いよどんでいると「3 人だけじゃないか！　みんなじゃないだろ！」「…」それでも，当時の私にとっては A くんと B くんと C くんが見渡す世界の価値観の大半を占めていたように思いますし，彼らがいいと言えば世の中全体も当然のように許容してくれると信じて疑わなかったものです．他愛もない話ではありますが，似たような記憶をお持ちの方もおられるかもしれません．

時は流れ立場は変わりましたが，「みんなそう言ってますよ」といった言い回しは様々な場面で時折耳にするような気がしますし，自分自身でも相変わらず使っているようです．それらには「必ずしも統計的な裏付けはないのだけれども」といった前提が無意識のうちに相互に理解されている場合もあるでしょう．「肌感覚」などという言葉に至っては最初から統計は度外視して個人の感覚を表現したもののようにも思います．それらは自らの意見を無意識のうちに補充しようとして用いられる言葉でもあるのでしょう．もちろん，そういった言い回しが全くけしからん，などというつもりはありません．皆さん善意の感覚に基づいて話をしておられるものと思います．

最近のネット空間などにおりますと，いわゆる「おすすめ」などと称するものが（恐らくは自らの過去の検索・閲覧履歴や発信状況などを一定のアルゴリズムで処理された上で）パソコンやスマホの画面に表示されたりします．「おすすめ」は時として役に立つ反面，「世の中がこういった状況にある」ように錯覚してしまうこともままあるように感じます．自らと好みを同じくするもの，賛同する考えと同様のものばかりが目に付く場所に表示される傾向にある，とも言われます．真実と虚偽の区別が，時として非常に曖昧となりかねない中で，自らの目や耳に心地よい言動は，あたかも自らの心に優しくよりそうようにも感じられるのでしょう．他方，自らをとげさすように炎上し「荒らされ」た SNS の中で，世界のすべてが敵のように感じられていたものが実は数えるほどのアカウントの発言が基となっていた，などという話も聞いたことがあります．人工知能が普及しつつある世の中で，私たちは知らず知らずのうちにバイアスのかかった情報の中にいるのでしょう．現実の世界は自分が普段眺めている世界とは大分異なっているのかもしれません．

さて，私たちのように分析に携わり，数値や統計を大切にする者としては，客観的な情報により物事を判断したいところです．しかしながらそれぞれの人が異なる世界を眺める中，これまでより「客観視」がはるかに難しいこととなっているようにも思います．難しいこととは言え，常により広い世界を意識して俯瞰（ふかん）する努力とともに，何より心の余裕が必要なのでしょうか．「みんな言ってるよ．」それ，誰が言っていますか？

〔Yamamoto Hiroyuki，量子科学技術研究開発機構，日本分析化学会会長〕